

早稲田大学 人間科学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	全問マーク式
試験時間	90分(現代文2問、古漢1問)
難易度	昨年並み

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「『ことば』と『思い』」について。出典：岡本恵徳『「沖縄」に生きる思想』。

《本文字数：約 2400 字＝昨年より約 400 字減少。設問数：8＝昨年より1問減少。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【傍線部理解】傍線部は「ことば」についての表現であることに着目して判断する。
問二	標準	【空欄補充】ニと少し迷うが、空欄Aの2行後、及び、傍線cの1行前の表現から判断できる。
問三	やや易	【脱文挿入】「つまり」に着目。脱文は直前の内容の要約である。
問四	易	【漢字】選択肢の熟語の意味から考えても容易に判断できる。
問五	標準	【空欄補充】前後の文脈から判断。ホは直前とのつながりが不適切。
問六	やや易	【傍線部説明】傍線cの直前の指示語「そういう」に着目し、直前の内容と選択肢とを照合する。
問七	やや易	【空欄補充】一つ前の段落内容から考える。
問八	易	【傍線部理解】ハの後半が本文と異なることは容易に判断できる。

(二) 説明文。「科学論文の書き方」について。

出典：中井久夫『日本語文を書くための古いノートから』。

《本文字数：約 2300 字＝昨年より約 700 字増加。設問数：8＝昨年と同じ。》

問九	易	【空欄補充】空欄 I に続く内容から容易に判断できる。
問十	易	【空欄補充】空欄 II の前後の表現、及び、空欄ロの1行後から考える。
問十一	やや易	【脱文挿入】脱文中の指示語に着目し、直前部分とのつながりから判断する。
問十二	易	【空欄補充】空欄 III の直前の2行から容易に判断できる。
問十三	易	【漢字】いずれも基本的な漢字である。
問十四	易	【理由説明】紛らわしい選択肢もなく、容易に判断できる。
問十五	標準	【空欄補充】空欄直後の内容から、「議論」と「結論」、「材料と方法」と「結果」が各々セットになっていることをつかむ。
問十六	易	【趣旨判定】ハの「日本語特有の情感を活用」は本文に全くない。

(三) 古文。出典：上田秋成『藤篋冊子』。

《本文字数：約 1150 字＝昨年より約 500 字増加。設問数：7＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十七	標準	【脱文挿入】空欄3の直後の一文に着目する。
問十八	標準	【空欄補充】空欄Aを含む一文は、直前の一文を強めた文であることに着目する。
問十九・B	やや難	【文脈把握】傍線部の「さるべき」「ことわり」「せむ」から判断する。
問十九・E	やや易	【文脈把握】傍線部の「やは」は反語の表現。
問二十	やや易	【文脈把握】ホだけが他の選択肢の逆の内容なので容易に判断できる。
問二十一	やや易	【文脈把握】傍線部Cの1行前に「人に越えたらん」とあるので容易。
問二十二	標準	【文法問題】「多かり」は、和文での「多し」の終止形。
問二十三	やや易	【内容合致】紛らわしい選択肢がないので、消去法でも容易に判断できるだろう。

(三) 漢文。出典：『莊子』。

《本文字数：42 字＝昨年とほぼ同じ。設問数：3＝昨年と同じ。》

問二十四・(1)	やや易	【返り点】「衣以文繡」と「食以芻菽」が対句的表現であることに気づければ容易。
問二十四・(2)	標準	【句形】反語形。「可……乎」で「……(ス)べけんや」と読む。
問二十四・(3)	標準	【内容合致】本文全体を読んで判断する。

〔総合コメント・今後の指針〕

昨年同様、現代文は基本的な設問が中心に出題されたので、多くの受験生が高得点をとったと思われる。大問三の古文でどれだけ点が取れたかで合否が分かれるであろう。

大問一は、『ことば』と『思い』についての評論文。読みやすい内容で、設問もそれほど難しくなく、傍線部や空欄の前後の文脈だけで解ける設問がほとんどだったので、高得点を取った受験生が多かったであろう。問二、問五、あたりでやや差がつくかもしれない。ふだんから傍線部や空欄の前後をしっかりと分析するという姿勢を身につけるとよい。

大問二は、「科学論文の書き方」についての説明文。大問一と同様、読みやすい内容で基本的な設問が多かったので、高得点をとる必要があるだろう。

大問三の古文は、『藤篋冊子』。多くの受験生にとってなじみのない内容なので、丁寧に読み進めないと何の話か分からなくなってしまう。ふだんから、省略されている語句を補いつつ、じっくり読む、という練習をしておくことが望まれる。

漢文は、『莊子』。昨年同様、本文は短く、設問も難しくない。古文が読めていないと問二十四・(3)は失点してしまうが、他の設問は漢文の基本事項なので確実に得点したいところ。現役生のなかには受験勉強で漢文まで手が回らないという人がいるだろうが、句形などの基本事項だけでもマスターして、センター試験レベルの漢文はできるようにしておきたい。